

I | 映画館での上映

2

公開本数・公開作品

公開本数

映画の公開本数は、1955年以降2004年までは大体550~650本を推移してきたが、2005年に731本を記録、その後も増え続け、2013年には日本映画、外国映画とも500本以上が公開され、公開本数は1000本を越えた。これ以降、公開本数が1000本を下回ることなく、2019年には1278本もの映画が公開されている。コロナ禍の中、2020年も日本映画506本、外国映画511本の1017本が公開された。2021年は1000本をわずかに割り込んだが、それでも日本映画490本、外国映画469本、合計959本が公開されている(映連発表数値)。前年に比べると、日本映画の公開本数は16本減、外国映画は42本減となっている。

→ fig.07

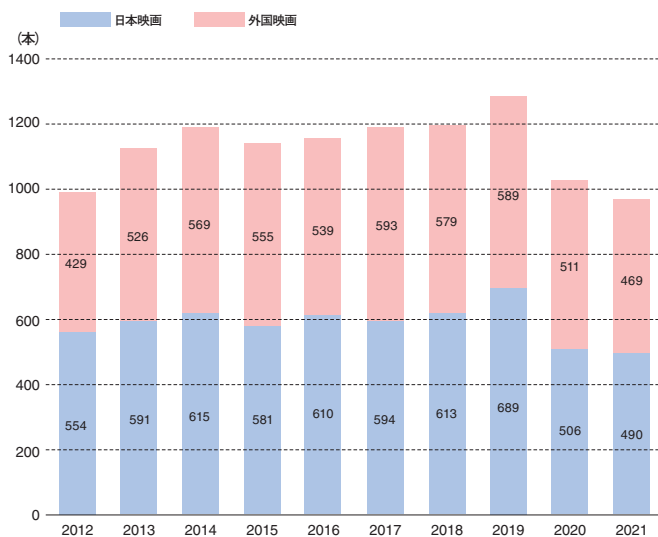
興行収入

2021年の興行収入は、日本映画が1283億3900万円(前年比117.4%)、外国映画が335億5400万円(前年比98.7%)、合計1618億9300万円で、前年比113.0%と前年を13%上回っている。

2019年と比較すると、日本映画は90%まで回復、2018年の1220億2900万円を上回る興収を上げている。

一方、外国映画は2019年比20%にとどまっており、2020年を越えることができなかった。興行収入が10億円を越えた外国映画は、『ワイルド・スピード/ジェットブレイク』(2021年8月公開)、『007/ノー・タイム・トゥ・ダイ』(2021年10月公開)、『ゴジラvsコング』(2021年7月公開)、『映画 モンスターハンター』(2021年3月公開)、

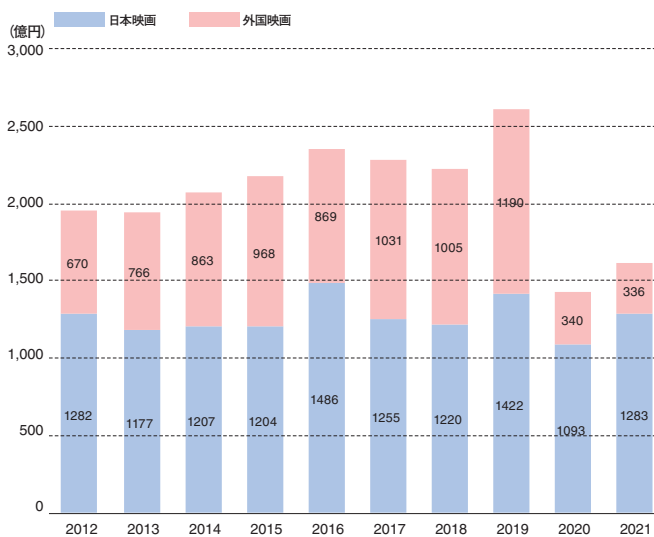
fig.07 公開本数の推移(2012-2021)



	公開本数			シェア	
	日本映画	外国映画	合計	日本映画	外国映画
2012	554	429	983	56.4%	43.6%
2013	591	526	1,117	52.9%	47.1%
2014	615	569	1,184	51.9%	48.1%
2015	581	555	1,136	51.1%	48.9%
2016	610	539	1,149	53.1%	46.9%
2017	594	593	1,187	50.0%	50.0%
2018	613	579	1,192	51.4%	48.6%
2019	689	589	1,278	53.9%	46.1%
2020	506	511	1,017	49.8%	50.2%
2021	490	469	959	51.1%	48.9%

—「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

fig.08 興行収入の推移(2012-2021)



	興行収入(億円)			シェア	
	日本映画	外国映画	合計	日本映画	外国映画
2012	1,281.81	670.09	1,951.90	65.7%	34.3%
2013	1,176.85	765.52	1,942.37	60.6%	39.4%
2014	1,207.15	863.19	2,070.34	58.3%	41.7%
2015	1,203.67	967.52	2,171.19	55.4%	44.6%
2016	1,486.08	869.00	2,355.08	63.1%	36.9%
2017	1,254.83	1,030.89	2,285.72	54.9%	45.1%
2018	1,220.29	1,004.82	2,225.11	54.8%	45.2%
2019	1,421.92	1,189.88	2,611.80	54.4%	45.6%
2020	1,092.76	340.09	1,432.85	76.3%	23.7%
2021	1,283.39	335.54	1,618.93	79.3%	20.7%

—「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

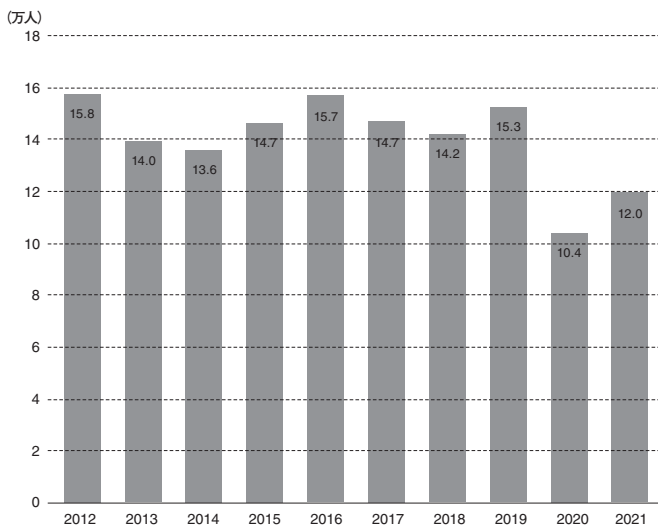
『エターナルズ』(2021年11月公開)の5本のみである。300館以上での大規模公開となった作品は21本あったが、その多くが10億円を越えるには至らなかった。

2020年以降、劇場公開と配信での公開の関係が変化している。映画館の閉館が長期化する中で例外的な措置として行われた配信のみの公開や、劇場・配信同時公開、劇場公開と配信公開の間隔の短縮等を、映画館が再開した2021年以降も適用する作品が増えている。これに対して映画館側が反発、当該作品の公開を控えるということも起きている。

今後、映画館の観客数は徐々に回復していくと考えられるが、映画興行のあり方がコロナ前の状態に戻ることはないだろう。コロナ後の映画館での興行の正常な形がどのようなものになるのか、注視する必要がある。

→ fig.08, fig.09

fig.09 1作品当たりの観客数の推移(2012-2021)



	公開本数(本)	観客者数(千人)	1作品当たりの観客数	前年比
2012	983	155,159	157,842	
2013	1,117	155,888	139,560	-18,283
2014	1,184	161,116	136,078	-3,482
2015	1,136	166,630	146,681	10,604
2016	1,149	180,189	156,822	10,141
2017	1,187	174,483	146,995	-9,828
2018	1,192	169,210	141,955	-5,040
2019	1,278	194,910	152,512	10,557
2020	1,017	106,137	104,363	-48,149
2021	959	114,818	119,727	15,364

—「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

公開規模

コミュニティシネマセンターではインターネットに掲載された情報を元に独自に「公開作品」リストを作成している。2021年の公開本数はODSを含む日本映画504本、外国映画494本、合計998本(都内1~2館特集上映での公開作品を含めると1112本)という数値を得ている。映連発表の数値は、日本映画490本、外国映画469本、計959本となっており、多少の齟齬があるが、以下では、こちらで得たデータを元に公開作品の中味を見てみる。

公開規模

「300館以上」の映画館で公開されたのは、日本映画48本、外国映画21本で、いずれも2020年を大きく上回っている。

日本映画では、『名探偵コナン 緋色の弾丸』(4月公開)、『映画クレヨンしんちゃん 謎メキ! 花の天カス学園』(7月)といった定番のアニメーションや、『竜とそばかすの姫』(7月)、『シン・エヴァンゲリオン劇場版』(3月)等の話題のアニメ作品、『るろうに剣心 最終章』2作品(4月、6月)、『東京リベンジャーズ』(7月)、『マスカレード・ナイト』(9月)、『ザ・ファブル 殺さない殺し屋』(6月)、『護られなかった者たちへ』(10月)など、映画ファン、若者層を主なターゲットとした作品が340館以上で公開されている。

外国映画では300館以上で公開された作品は21本あるが、興収が10億円を越えたのは『ワイルド・スピード/ジェットブレイク』、『007/ノー・タイム・トゥ・ダイ』、『ゴジラvsコング』、『映画 モンスターハンター』、『エターナルズ』の5本だけである。

2020年には外国映画の大作がほとんど公開されなかったため、シネコンではこれまで上映してこなかったようなミニシアター系の作品にも手を伸ばすようになった。その傾向は2021年も続いている。また、2020年までは、日本映画、外国映画とも150館以上で公開される作品のほとんどが「シネコンのみ」で上映されていたが、2021年は大規模公開作品がミニシアターでも上映されることが増えている。

コロナ禍の2020-2021年の傾向として、シネマコンプレックスとミニシアターの両方で公開される作品が増えたということがある。シネコンとミニシアターの両方で公開される作品は、2019年は日本映画で104本(18%)、外国映画では125本(24%)だったが、2021年は日本映画で160本(32%)、外国映画は204本(41%)と大幅に増加している。日本映画・外国映画を合わせてみると、2019年は229本(21%)で2021年は364本(36%)となっている。2020年に、ブロックバスターと言われるようなアメリカ映画の大作の公開が止まってしまったことで、ある意味ではシネコンの上映作品の多様化が進んだといえる。一方で、ミニシアターでは、シネコンでの公開から多少遅れても集客が見込める話題作、大規模な作品を上映するようになっているといえる。

それでも、ミニシアターでしか上映されない作品のパーセンテージはあまり変化しておらず、数多く存在する。「49館以下」の公開作品は、日本映画で293本、外国映画では350本に上る。これらの作品のうち、日本映画で207本(71%)、外国映画で227本(65%)がミニシアターのみでの公開となっている。

ミニシアターでしか上映されない作品の中には、国際映画祭等で高い評価を得た作品や重要なドキュメンタリー映画、多くの若い作り手たちの野心的な作品が含まれている。また、後述する旧作のデジタルリマスター版のリバイバル上映や監督の特集上映などもほとんどが、ミニシアターのみで行われている。

→ fig.10

公開作品の種類

2021年の日本映画の公開本数は、2019年の数値には及ばなかったものの、2020年の440本を60本以上上回る504本にのぼった。その内訳をみると、劇映画の新作が321本、アニメーション新作が95本、ドキュメンタリー映画が68本、公演やライブ等のODSが20本、特集上映(短篇・若手)が40本となっている。

2020年はコロナの感染拡大の影響で、子供・ファミリー向けの定番アニメ映画が公開延期と

なったが、2021年は、「名探偵コナン」「クレヨンしんちゃん」「劇場版ポケットモンスター」といったシリーズは予定通りに公開され、『シン・エヴァンゲリオン劇場版』(庵野秀明総監督)、『竜とそばかすの姫』(細田守監督)といった話題作も公開されて、興行収入の1~3位を日本のアニメーション映画が占めることとなった。『時をかける少女』(06)、『ルパン三世 カリオストロの城』(79)、『機動警察 パトレイバー 2 the Movie』(93)、『GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊』(95)といった名作アニメーションが4Kリマスター版等で上映されたことも話題となった。

劇映画では、『東京リベンジャーズ』、『るろうに剣心 最終章 The Final』、『花束みたいな恋をした』等々のヒット作が生まれたが、2021年最大の話題作は『ドライブ・マイ・カー』(濱口竜介監督)だった。7月のカンヌ国際映画祭での脚本賞等4冠獲得で注目を集め、8月に劇場公開、その後も様々な国際映画祭等で受賞を果たすなど話題が途切れることがなく、2022年に入ってもアカデミー賞4部門ノミネート、日本アカデミー賞最優秀作品賞受賞と大きなニュースが続き、春以降も上映が続いている。ベルリン国際映画祭で銀熊賞を受賞した『偶然と想像』も12月17日に劇場公開され、ミニシアターで多くの観客を集めている。

2021年も多くのドキュメンタリー映画が劇場公開された。公開された68作品のうち、全国30館以上での公開となった作品が21本(2019年は12本)となり、シネマコンプレックスで上映される作品も増えており、映画館でのドキュメンタリー映画の上映が定着していることをうかがわせる。

外国映画は、2021年は494本が公開された。2020年は415本と前年の81%まで減少したが、公開本数はかなり回復している。内訳は、劇映画の新作が279本、アニメーションの新作が20本、ドキュメンタリー映画69本、ODS16本、旧作デジタルリマスター版のリバイバル公開が31本、旧作の特集上映が15企画79本となっている。さらに、東京の1館(あるいは2、3館)のみで特集上映された作品74本を加えると合計568本となる。

ドキュメンタリー映画は69本と前年の33本から倍増している。その中で目立つのが、音楽関連のドキュメンタリーで、『BILLIE ビリー』『アメイジング・グレイス アレサ・フランクリン』『ジョン・コルトレーン チェイシング・トレイン』といった著名なアーティストの伝記的ドキュメンタリーはいずれも50館以上で公開され、多くの音楽・映画ファンを集めている。また、元「トーキング・ヘッズ」デビッド・バーンのブロードウェイのショーをスパイク・リーが撮った『アメリカン・ユートピア』は公開から2ヶ月で興収1億円を越え、音楽ドキュメンタリー映画としては異例の大ヒットとな

った。また、アカデミー賞長編ドキュメンタリー作品賞にノミネートされた1969年の「ハーレム・カルチュラル・フェスティバル」のドキュメント『サマー・オブ・ソウル(あるいは、革命がテレビ放映されなかった時)』も話題を集めた。

2021年も多くの旧作のデジタルリマスター版のリバイバル公開が行われた。『ダンサー・イン・ザ・ダーク』(00)、『バッファロー '66』(98)、『クラッシュ』(96)、『ヘカテ』(82)といったミニシアター全盛期を彩る作品、また『ダーティ・ダンシング』(87)、『ハンバーガー・ヒル』(87)、『サスペリア Part2』(75)、『マンディンゴ』(75)等の話題作、

『田舎司祭の日記』(51)、『やさしい女』(69)、『わんぱく戦争』(61)、『夜空に星のあるように』(67)といったクラシックといってもいい名作が公開され、映画ファンを集めている。

2021年の特徴として、日本映画、外国映画ともに、多くの「特集」が複数の映画館に巡回(配給)されたことが挙げられる。日本映画では、「森田芳光70祭」「没後20年 作家主義相米慎二〜アジアが見た、その映像世界」「山本政志脳天映画祭」といった監督の特集、4Kでデジタル修復された日本のアニメーションの至宝・岡本忠成、川本喜八郎監督作品集、旧作の

fig.10
2021年に映画館で公開された作品の公開規模

日本映画 公開館数	2021					2020											
		シネコンのみ	シネコン+ミニシアターのみ	ミニシアターのみ		シネコンのみ	シネコン+ミニシアターのみ	ミニシアターのみ									
300館以上	48	10%	43	5	0	34	8%	34	0	0							
150~299館	46	9%	18	28	0	34	8%	26	8	0							
100~149館	39	8%	20	19	0	35	8%	20	15	0							
70~99館	46	9%	13	33	0	32	7%	17	15	0							
50~69館	32	6%	13	18	1	37	8%	16	17	4							
30~49館	61	12%	15	32	14	49	11%	12	21	16							
10~29館	90	18%	7	19	64	89	20%	18	13	58							
9館以下	142	28%	7	6	129	130	30%	12	6	112							
以上小計	504	100%	136	27%	160	32%	208	41%	504	440	100%	155	35%	95	22%	190	43%
49館以下で公開された作品本数	293					268											
うちミニシアターのみでの上映作品	207					186											
その他 (特集での1回上映など)	40					42											
日本映画公開本数 合計	544					482											
外国映画 公開館数	2021					2020											
		シネコンのみ	シネコン+ミニシアターのみ	ミニシアターのみ		シネコンのみ	シネコン+ミニシアターのみ	ミニシアターのみ									
300館以上	21	4%	21	0	0	14	3%	14	0	0							
150~299館	31	6%	12	19	0	13	3%	11	2	0							
70~149館	42	9%	6	35	1	48	12%	9	35	4							
50~69館	50	10%	3	42	5	74	18%	7	56	11							
30~49館	140	28%	7	69	64	91	22%	6	37	48							
10~29館	154	31%	3	31	120	123	30%	20	28	75							
9館以下	56	11%	5	8	43	52	13%	11	2	39							
以上小計	494		57	12%	204	41%	233	47%	415	100%	78	19%	160	39%	177	43%	
49館以下で公開された作品本数	350					266											
うちミニシアターのみでの上映作品	227					162											
その他 (都内1~2館での上映など)	74					125											
外国映画公開本数合計	568					540											
日本映画+外国映画	1112					1022											

デジタルリマスター版のリバイバル公開に合わせて行われた『十九歳の地図』公開記念 柳町光男監督傑作選や『チョコリエッタ』リバイバル上映+風間志織監督特集、ドキュメンタリー『いまはむかし 父・ジャワ・幻のフィルム』の公開記念として行われた「伊勢長之助関連特集上映」、ドキュメンタリー映画『スズさん 昭和の家事と家族の物語』に合わせて組まれた「昭和30年代の暮らし映画特集」、「空族特集 2021 God speed you!!!」堤幸彦監督映画 50 作公開記念上映会などが、複数の映画館で上映されている。

外国映画では、15 企画 79 本が上映された。「ジャン=ポール・ベルモンド傑作選」、「エリック・ロメール監督特集上映 六つの教訓話」、「奇跡の映画 カール・テオドア・ドライヤー セレクション」、「ミシェル・ルグランとヌーヴェルヴァーグの監督たち」といった特集は好評を博し、「ジム・ジャームッシュ レトロスペクティブ 2021」「ヴィム・ヴェンダース レトロスペクティブ ROAD MOVIES / 夢の涯てまでも」は長期にわたり上映が続いている。「SPAAK! SPAAK! SPAAK! カトリーヌ・スパークレトロスペクティブ」、「ケリー・ライカートの映画たち 漂流のアメリカ」といった小特集も話題を集めた。クシシュトフ・キエシロフスキー監督の「デカログ」全 10 話もデジタルリマスター版で一挙上映された。

また、シネコンを中心に名作・話題作を集めて上映する「午前十時の映画祭」がファンの熱望にこたえて 2 年ぶりに復活、63 の映画館で 27 作品が上映されている。

→ fig.11

fig.11
2021 年に公開された映画の分類

日本映画	2021	2020	2019
一般映画新作(劇映画)	321	304	380
一般映画新作(アニメーション)	95	63	94
ドキュメンタリー	68	60	71
ODS	20	13	32
特集上映(短篇・若手・その他)	40	42	73
日本映画合計	544	482	650
外国映画	2021	2020	2019
一般映画新作(劇映画)	279	272	330
一般映画新作(アニメーション)	20	16	16
ドキュメンタリー	69	33	55
ODS	16	31	47
旧作デジタルリマスター版	31	14	35
特集上映(旧作デジタルリバイバル) 15 企画	79	49	31
以上小計	494	415	514
1 館(あるいは 2、3 館)のみでの上映	74	125	128
外国映画合計	568	540	642
日本映画+外国映画	1112	1022	1292

興行収入10億円を超える映画/ 10億円以下の映画

2021年、興行収入が10億円を越える映画は邦洋合わせて37本(2020年25本、2019年65本)となった。本数では全公開本数959本の3.9%、興行収入では、日本映画約898.9億円(2020年856.3億円、2019年1047.8億円)、洋画107.4億円(2020年161.4億円、2019年961億円)で合計1006億円となり、全興行収入の62.2%を占めている。2019年の76.9%からは大幅に減少している。特に、外国映画は2019年の10分の1ほどとなっており、コロナによる大作の公開延期や中止の影響をみる事ができる。

→ [fig.12](#), [13](#), [14](#), [15](#), [16](#)

fig.12
2021年興行収入10億円以上作品[日本映画]

順位	公開月	作品名	興行収入 (億円)	配給会社
1	3月	シン・エヴァンゲリオン劇場版	102.8	東宝 東映/カラー
2	4月	名探偵コナン 緋色の弾丸	76.5	東宝
3	7月	竜とそばかすの姫	66	東宝
4	11月	ARASHI Anniversary Tour 5x20 FILM "Record of Memories"	45.5	松竹
5	7月	東京リベンジャーズ	45	WB
6	4月	るろうに剣心 最終章 The Final	43.5	WB
7	20 12月	新解釈・三國志	40.3	東宝
8	1月	花東みたいな恋をした	38.1	東京テアトル リトルモア
8	9月	マスカレード・ナイト	38.1	東宝
10	8月	僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールドヒーローズ ミッション	33.9	東宝
11	20 11月	STAND BY ME ドラえもん 2	27.8	東宝
12	20 12月	映画 えんとつ町のプペル	27	東宝 吉本興業
13	6月	るろうに剣心 最終章 The Beginning	25	WB
14	6月	機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ	22.3	松竹
15	20 12月	滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie	21.4	松竹
16	20 12月	約束のネバーランド	20.3	東宝
17	20 12月	劇場版ポケットモンスター ココ	20.2	東宝
18	1月	銀魂 THE FINAL	19	WB
19	7月	映画クレヨンしんちゃん 謎メキ! 花の天カス学園	17.7	東宝
20	10月	そして、バトンは渡された	17.2	WB
21	6月	キャラクター	16	東宝
22	10月	劇場版 ソードアート・オンライン -プログレッシブ- 星なき夜のアリア	14.3	アニプレックス
23	6月	ザ・ファブル 殺さない殺し屋	14.2	松竹
24	11月	劇場版「きのう何食べた?」	13.9	東宝
25	11月	映画 すみっこぐらし 青い月夜のまほうのコ	12.6	アスミック・エース
26	2月	名探偵コナン 緋色の不在証明	12.4	東宝
26	10月	老後の資金がありません!	12.4	東映
28	3月	奥様は、取り扱い注意	11.9	東宝
29	10月	燃えよ剣	11.8	東宝 アスミック・エース
30	5月	いのちの停車場	11.2	東映
31	8月	かぐや様は告らせたい ~天才たちの恋愛頭脳戦~ ファイナル	10.6	東宝
32	7月	ハニーレモンソーダ	10	松竹
合計			898.9	

—「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟) 参照

fig.13
2021年興行収入10億円以上作品[外国映画]

順位	公開月	作品名	興行収入 (億円)	配給会社
1	8月	ワイルド・スピード/ジェットブレイク	36.7	東宝東和
2	10月	007/ノー・タイム・トゥ・ダイ	27.2	東宝東和
3	7月	ゴジラvsコング	19	東宝
4	3月	映画 モンスターハンター	12.5	東宝 東和ピクチャーズ
5	11月	エターナルズ	12	WDS
合計			107.4	

—「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟) 参照

fig.14

2021年興行収入上位20作品

順位	公開月	作品名	興行収入 (億円)	配給会社
1	3月	シン・エヴァンゲリオン劇場版	102.8	東宝 東映 カラー
2	4月	名探偵コナン 緋色の弾丸	76.5	東宝
3	7月	竜とそばかすの姫	66	東宝
4	11月	ARASHI Anniversary Tour 5x20 FILM "Record of Memories"	45.5	松竹
5	7月	東京リベンジャーズ	45	WB
6	4月	るろうに剣心 最終章 The Final	43.5	WB
7	20 12月	新解釈・三國志	40.3	東宝
8	1月	花束みたいな恋をした	38.1	東京テアトル リトルモア
9	9月	マスカレード・ナイト	38.1	東宝
10	8月	ワイルド・スピード/ジェットブレイク	36.7	東宝東和
11	8月	僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールド ヒーローズ ミッション	33.9	東宝
12	20 11月	STAND BY ME ドラえもん 2	27.8	東宝
13	10月	007/ノー・タイム・トゥ・ダイ	27.2	東宝東和
14	20 12月	映画 えんとつ町のプペル	27	東宝 吉本興業
15	6月	るろうに剣心 最終章 The Beginning	25	WB
16	6月	機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ	22.3	松竹
17	20 12月	滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie	21.4	松竹
18	20 12月	約束のネバーランド	20.3	東宝
19	20 12月	劇場版ポケットモンスター ココ	20.2	東宝
20	1月	銀魂 THE FINAL	19	WB
合計			776.6	
2021年興行収入合計			1618.9	2020...1432.9 2019...2611.8
2021年10億円以上作品興行収入			1006.3	2020...912.3 2019...2008.8
興行収入10億円以上作品の割合			62.2%	

fig.15

興行収入10億円以上の作品/興行収入10億円未満(2021)

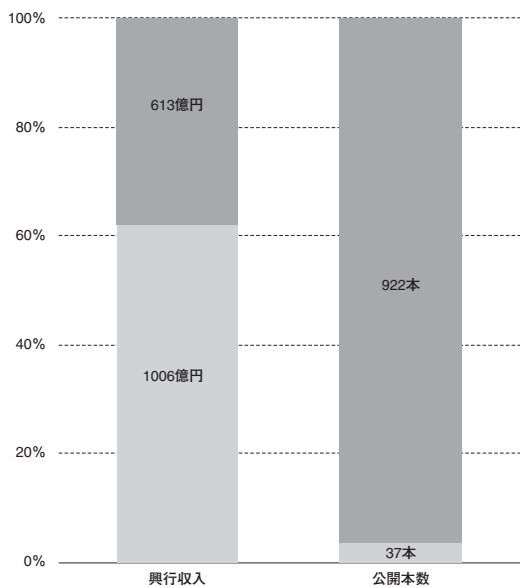


fig.16

興行収入10億円以上の映画/興行収入10億円未満の映画(2012-2021)

	10億円以上			10億円未満	
	全体	興収	割合	興収	割合
2012	1,952	1,391	71.3%	561	28.7%
2013	1,942	1,379	71.0%	563	29.0%
2014	2,070	1,411	68.2%	659	31.8%
2015	2,171	1,595	73.5%	576	26.5%
2016	2,355	1,763	74.9%	592	25.1%
2017	2,286	1,618	70.8%	667	29.2%
2018	2,225	1,563	70.2%	662	29.8%
2019	2,611	2,009	76.9%	602	23.1%
2020	1,433	912	63.7%	521	36.3%
2021	1,619	1,006	62.2%	613	37.8%

	10億円以上			10億円未満	
	全体	本数	割合	本数	割合
2012	983	59	6.0%	924	94.0%
2013	1117	56	5.0%	1061	95.0%
2014	1184	49	4.1%	1135	95.9%
2015	1136	61	5.4%	1075	94.6%
2016	1149	61	5.3%	1088	94.7%
2017	1187	62	5.2%	1125	94.8%
2018	1192	54	4.5%	1138	95.5%
2019	1278	65	5.1%	1213	94.9%
2020	1017	25	2.5%	992	97.5%
2021	959	37	3.9%	922	96.1%

—fig. 15, 16ともに「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)参照

